

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-72C	12-021	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Alcohol drinking, tobacco smoking and subtypes of haematological malignancy in the UK Million Women Study 飲酒・喫煙と血液がんの種類について ; The Million Women Study		
執筆者		
Kroll ME, Murphy F, Pirie K, Reeves GK, Green J, Beral V; Million Women Study Collaborators		
掲載誌		
Br J Cancer. 2012 Aug 21;107(5):879-87.		
キーワード		
飲酒、喫煙、リンパ腫、白血病、血液がん		
要 旨		
<p>目的： 飲酒量が少ないことと喫煙習慣が血液がんの危険因子であることが先行研究で示されている。前向き研究であるThe Million Women Studyを用いて飲酒と喫煙が血液がんの病型ごとに及ぼす影響を評価した。</p> <p>方法： 1996-2001年のイギリスにおける中年女性約130万人を対象とし、死亡、転出、がん登録を2009年まで追跡した（平均10.3年）。基本特性はアンケートによった。Cox回帰分析により調整後の相対危険度を求めた。</p> <p>結果： 追跡期間中に9,162例の血液がんが発生し、リンパ腫7,047例、骨髄腫2,072例であった。飲酒者のうち、飲酒量が多いほどリンパがんが少なく、特にびまん性大細胞型B細胞リンパ腫（10g/日の相対危険度0.85, 95%CI 0.75-0.96）、濾胞性リンパ腫（相対危険度0.86, 95%CI 0.76-0.98）、plasma cell neoplasms（相対危険度0.86, 95%CI 0.77-0.96）でその傾向がみられた。非喫煙者と現在喫煙者では、喫煙量が多いほどホジキンリンパ腫（10本/日の相対危険度1.45, 95%CI 1.22-1.72）、mature T-cell malignancies（相対危険度1.38, 95%CI 1.10-1.73）、骨髄増殖性・骨髄異形成症候群（相対危険度1.42, 95%CI 1.31-1.55）のリスクが高かった。</p> <p>結論： 本研究は、女性において飲酒と喫煙が血液がんの病型ごとに及ぼす影響を明らかにした。</p>		